

改めて無垢とは何なのだろうか

瀧口木材株式会社
瀧口宇一郎(1班)

先日、インターネットをつらつらと眺めていたところ、とある工務店さんが「この無垢のフローリングがおすすめ」と書いている記事を見かけた。しかし、記事には合板の上に2ミリ厚の木材を貼った挽板(ひきいた)のフローリングが写っていたため、記事に対しては「これは無垢ではない」などのコメントが寄せられていた。

私はそのコメントを眺めながら、改めて無垢とは何を表す言葉なのか、気になって少々調べ、考えたので、その結果を記しておく。

なお、業界ではおそらく幾度も議論された話題であろう、この程度の記事を乗せてしまうのは大変恥ずかしくあるが、ご笑納いただきたい。

まず、「無垢」という言葉が法令、規格に記載があるかを確認した。

- 建築基準法、同施工令、施行規則
- 日本農林規格(JAS)
- 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)

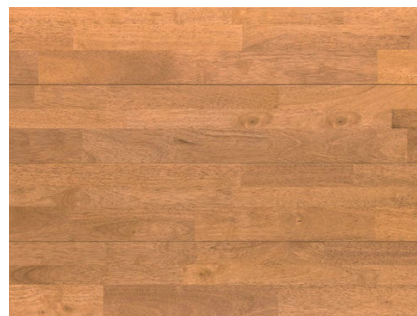
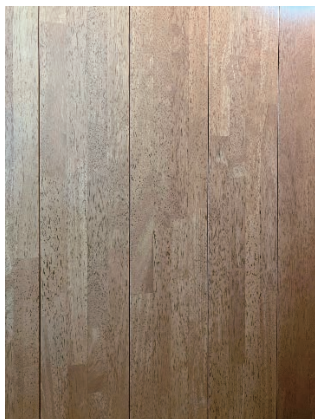
これらの資料には「無垢」という言葉は一切記載がなかった

規格などに記載がないなら、しょうがない。あとはどう使われているかを調べていった。一般的なイメージでは、無垢とは「木材を切る、削る、磨くという方法のみで加工した商品」という感じだろう。これは、おそらくみなさん多少納得いただけると思う。

ここで、無垢のフローリングについて見てみよう。流通している無垢フローリングには「ソリッド(OPC)」「ユニ」「FJL」という種類がある。



挽板フローリング



写真はFJLのフローリング

FJLフローリングは、端的に言うと集成材だ。製造に切る、削る、磨く以外に接着剤を使用している。それなのに「無垢」フローリングとして流通しており、何の問題もなく売れている。無垢とは何なのだろうか？

接着剤を使用しても「無垢」と呼ばれるならば、合板も「無垢」ではないか。そう思ったが、まあ、合板は合板で無垢ではない。もちろん記事の冒頭に示した、合板の上に2-3ミリ厚の木材を貼りつけた挽板フローリングも無垢ではないと扱われている。

次に、とあるインテリア系の会社ホームページを見ると、こう記載がある。

「北米産の無垢集成材を使用した家具です」

さあ、これは無垢なのだろうか？集成材なのだろうか？

このような表現で販売してもいいなら、やはり合板も「無垢合板」といっても差し支えないのではないか？ 多分ダメだろう。合板は合板らしい。

では構造用集成材はどうだろう。「無垢カラマツ大断面集成」とか「無垢ヒノキの集成管柱」と販売したら、どうだろう。おそらく皆さん首をかしげるだろう。なぜなら集成材は無垢ではない…いや、床と家具なら集成材でも無垢?? なんだか自信がなくなってきた。

屁理屈も最後になるが、建築の木質化が注目されているからか、誰もが「無垢」という言葉をうまく使う。無垢とは何だろう、なんて厳密な定義など、きっと不要なんだろう。

と、ここまで書いて、冷蔵庫の中から飲み物を取り出す。缶には「リキュール(発泡性)」と書いてある。これはビールなのか？発泡酒なのか？第三のビールなのか？

インターネットをつらつらと眺めていたところ、どうやら第三のビールらしい。なるほど。

続けてお酒について調べていると、「ビアボール」という新商品が出ているようだ。

ビアボール、どんな商品なのだろうか？

ビアボール：

ビアボールは、サントリーが2022年7月に業務用で試験発売を行ったのち、同10月から業務用中瓶、11月から家庭用小瓶をそれぞれ発売した、炭酸水で割るビールである。

炭酸水で割るビール。

ビールとは何だろうか？厳密な定義など不要なんだろうか？